この本の特色と使い方

この問題集は，「思考力」「表現力」「判断力」「分析力」をみる総合的な問題を集めたものです。

まずは，覚えなければいけない知識は何か，どうすれば考えをすばやくまとめられるか，どう表現すればわかりやすいかといったことを意識しながら学習しましょう。そして，基礎的な問題から類題，さらに応用的な問題へと学習を進めて，適性検査に必要な力を身につけてください。

1～7課は4ステップで構成されています。

ステップ1～3では，基本的な考え方や知識が完全に身についていることを確認しながら学習を進めてください。ステップ4では，さらに幅広い形式の問題や，複数の考え方が組み合わさった高度な問題に挑戦して，応用力を高めましょう。

8課の総合問題は，確認問題と練習問題の2ステップで構成されていて，1～7課の内容を総合的に扱っています。多くの問題にふれて，実力を身につけましょう。

ステップ1
例　題
考え方や着眼点を理解。

ステップ2
確認問題
自分の理解度をチェック。例題へのリターンも表示。

ステップ3
練習問題A
実際の適性検査にそった問題で実戦力をアップ。

ステップ4
練習問題B
さらにハイレベルな問題で応用力アップ。

もくじ

1　表現(1)……2
2　読解……8
3　言葉……14
4　身近なできごと……20
5　表現(2)……26
6　調査・研究……32
7　日本の文化と世界遺産……38
8　総合問題……44

1 表　現(1)

テーマ

- ●テーマにしたがって，自分の考えを文章に表す。
- ●体験談をわかりやすく読む人に伝える。
- ●作文を書くときのルールを確認する。

例題 1

「春休み」「夏休み」「冬休み」のうち，どの休みが最も好きかについて，自分の意見を書きましょう。ただし，そのように考える理由を体験や具体例を示して，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，150 字以内で書きましょう。

考え方

ステップ 1　まず，作文の（❶　　）が何であるかを確認します。例題 1 では「春休み」「夏休み」「冬休み」のうちどの休みが最も好きかについて，自分の意見を書くことです。

ステップ 2　この作文では，最も好きな休みをあげ，そのように考える理由を（❷　　）や具体例を示して，具体的に書く必要があります。

ステップ 3　原稿用紙の正しい使い方のルールを確認しておきましょう。段落の初めは 1 字下げて書き始めます。読点や（❸　　），かぎかっこなどの符号は 1 つのマスを使って書きます。ただし，句点の次にかぎかっこがくる場合や，句読点が行末にきた場合は 1 つのマスに句読点も入れます。

基礎知識

段落の分け方

長い作文では，段落を分けて書くほうがよい場合があります。段落は，次のような点に注目して，文章の意味のまとまりごとに分けます。

- ●「体験や具体例」と「意見」を書く作文では，「体験や具体例」と「意見」の部分で分けます。
- ●「体験」の内容が長い作文では，「時間」「場所」「人物」「できごと」が大きく変わるときに分けます。

Sample

例題 2

「思い出の食べ物・料理」というテーマで，心に残っていることがらを，自分の体験をふくめて，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，200 字以内で書きましょう。

考え方

ステップ 1　例題 2 の作文のテーマは「(❶　　)」です。以前に食べたもので，心の中に残っているものを思い出して書きます。

ステップ 2　食べ物にまつわる（❷　　）を書き，そのときに感じた気持ちを素直に書くことが大切です。「いつ」「どこで」「だれと食べた」「だれが作った」など，読む人にわかりやすく書くようにしましょう。

ステップ 3　文末の表現はそろえるようにしましょう。文末が「(❸　　)」で終わるものを敬体，「だ，である」で終わるものを（❹　　）といい，1 つの作文の中では，その表現をそろえて書かなければなりません。

基礎知識

作文の問題では，次のような点に注意する必要があります。

●会話文の書き方

会話文を書くときは原則として行を変え，最初のマスから書き始めます。会話文のあとに続ける文も，原則として行を変えて書きます。

●「自分のことを表現する言葉」をそろえる

自分のことを表現する言葉には，「ぼく」や「わたし」など，いろいろな言葉がありますが，ひとつにそろえて書くようにしましょう。

Sample

例題 3

あなたがこれまでに「さびしさ」を感じたできごとを思い出して，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，200 字以内で書きましょう。どういうときに，どれくらいさびしく感じたか，読む人にわかりやすく伝わるように書きましょう。

考え方

ステップ 1　例題 3 の作文のテーマは「(❶　　)」で，その気持ちを感じた体験を書くというものです。毎日，生活をしていれば，楽しい日もあれば，悲しい日もあります。また，何かに対して，とても腹が立った体験もあるでしょう。いろいろな体験を通して人は成長していくものなので，その体験をしっかりと心にきざんでおきましょう。

ステップ 2　体験についての作文を書くときは，その体験をしたときに感じた気持ちを素直に表現することが大切です。解答例にあるように，そのとき思ったことを(❷　　)でくくって書くと，読む人にあなたの感じていたことがよく伝わります。

基礎知識

●作文全体の「構成」を考える

しっかりとした作文を書くためには，作文全体の「構成」を考える力が必要です。特に「意見」を書く作文の場合は，次のような構成のパターンを意識しましょう。

・《意見→体験や具体例》の構成　……初めに意見を書き，次に意見の理由となる体験や具体例を書きます。問題の中で示された意見や立場に賛成か反対かを書いたり，いくつかの意見や立場の中からどれかを選んで書いたりする作文は，この構成で書くとよいでしょう。

・《体験や具体例→意見》の構成　……はじめに体験や具体例を書き，次に体験や具体例をもとに考えた意見を書きます。体験や具体例をくわしく書く作文は，この構成で書くとよいでしょう。

Sample

確　認　問　題

□**1**　自分自身が，感覚（視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚など）をとおして，はっきり感じた季節の変化について，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，140字以内で書きましょう。➡**例題1**

□**2**　あなたがこれまでに，だれかから聞いたり，何かの本で読んだりした「心に残る言葉」を1つとりあげ，その言葉に関するあなたの体験と，その言葉に対するあなたの感想を，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，200字以内で書きましょう。➡**例題2，例題3**

Sample

練　習　問　題　A

□1　あなたが通学のと中で見かけた風景・できごとを(例)のように(　　)に箇条書きしましょう。その中から１つを選び，感じたことや考えたことを，原稿用紙の正しい使い方にしたがって，200字程度で書きましょう。

(例)　(横だん歩道で，交通整理をしてくれている近所のおじさんのようす。)

(　　)

(　　)

(　　)

(　　)

(　　)

(　　)

Sample

練　習　問　題　B

□1　「ぼくが(わたしが)信頼している人」というテーマで，次の注意にしたがって作文を書きましょう。(解答用紙は，別紙のものを使いましょう。)

【注意】

1　原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
2　段落は内容に応じて設けること。
3　文章の長さは，400 字程度とする。
4　作文の題は，つけないこと。

コラム　文章の種類（ジャンル）

文章には，いろいろな種類（ジャンル）があります。大きく分けると，作者の感動や思いが書かれた「文学的文章」と，物事の説明を主な目的とする「説明的文章」の 2 つに分けられ，それぞれがさらに細かく分けられます。

●文学的文章

・物語（小説）…人間や社会を題材として，登場人物の言動やできごとの流れで構成されている文章です。作者の自由な発想で書かれた「架空の話（フィクション）」のほか，事件などの事実をもとにして書かれたもの（ノンフィクション）や，歴史を題材として書かれたものなどもあります。なお，「SF」とは「サイエンス・フィクション」の略語で，進歩した科学を題材とした架空の話を指します。
・童話・寓話…童話とは「児童が読む話」という意味で，その多くは，話が短く，動植物や自然の事物（太陽や月など）といったものを人間に見立てて書かれています。寓話とは，生きていくうえでの教えとなるようなことを，たとえを使ってそれとなく示した文章です。有名な『イソップ物語』(『イソップ童話』や『イソップ寓話』ともよばれます）のように，多くの童話は，寓話的な面を持っています。
・伝記…実在した偉人の生がいなどを書きつづった文章で，エジソン，ナイチンゲール，ライト兄弟，野口英世などの伝記が有名です。自分自身のことを書いた伝記は「自伝（自叙伝)」とよばれます。
・随筆…筆者が実際に体験したことや，見たり聞いたりしたことをもとに，感想や思いを書きつづった文章です。随筆を専門とする作家もいますが，小説家・科学者・医者・役者など，さまざまな人によって書かれています。「随想」や「エッセイ」ともよばれます。
・紀行文…旅の行程をたどるような形で，筆者が体験したことや感じたことが書かれた文章で，「旅行記」や「道中記」ともよばれます。日本では，江戸時代の松尾芭蕉が残した『奥の細道』が有名です。

●説明的文章

・説明文…ある事がらについて，客観的な事実を説明する文章です。実験や観察の過程と結果を示す文章なども，説明文のひとつと言えます。
・論説文…ある事がらについて，筆者の意見や主張を伝える文章です。説明文が「客観的」な文章であるのに対して，論説文は「主観的」な部分をふくんだ文章です。

Sample